

# 仏教の源を訪ねて - 初期仏教 -

講師 佐藤直実  
宗教情報センター研究員  
四天王寺国際仏教大学非常勤講師

## 【仏教の宝】

仏 = 釈迦牟尼仏(如来) : 法を証した人, 開祖, 教祖, 教主, 宗祖  
法 = パーリ三蔵, 漢訳大蔵経, チベット大蔵経など : 真理, 教義, 経典, 聖典  
僧(団) = 出家者と在家者からなる集団 : 法を守り継承していく集団, 教団, 教会

## 1 様々な仏教

**初期仏教** = 小乗 = 声聞乗と独覚乗, 原始仏教と部派仏教

[目的] 出家者 阿羅漢になること  
在家者 来世でよりよい生存に生まれること  
[所依経典] 四阿含, 五ニカーヤ  
例) 上座部

**大乘** = 菩薩乗, 顕教と密教\*

[目的] 出家在家問わず, 菩薩として修行し, 無上正等覚者(ブッダ)になること  
[所依経典] 大乘経典, 密教経典\*  
例) 真言宗\*, 天台宗\*, 曹洞宗, 臨済宗, 浄土宗, 浄土真宗, 日蓮宗, チベット仏教\*など

**密教** = 金剛乗, 真言乗など

[目的] 出家在家問わず, 如来と入我我入し無上正等覚者(ブッダ)になること  
[所依経典] 密教経典  
例) 真言宗, 天台宗, チベット仏教など

## 2 仏教の歴史とインド社会

### 仏教の歴史

BC.6-5c 釈尊誕生 \* 釈迦族の王子として **部族国家から統一国家への過渡期**  
29歳で出家 瞑想修行・苦行 35歳で成道 **仏の誕生**  
初転法輪(布教) **教義の誕生** **教団の誕生** **三宝が成立**  
布教 80歳で入滅 第一結集 **経蔵と律蔵の制定** 二蔵が成立

BC.4c(仏滅後100年) 第二結集 **根本分裂** **マウリア王朝による北インド統一**  
・金品の受持などの「十事」や阿羅漢の性格に関する「五事」の是非をめぐり,  
保守的な上座部と進歩的な大衆部に分裂 **部派仏教の誕生**  
・各部派が教義を解釈するようになる **論蔵(アビダルマ)** 三蔵が成立

BC.3c アショーカ王による仏教保護, 仏塔建立 **マウリア王朝の拡大**  
西インドからスリランカへ伝播(上座部) **パーリ語聖典の成立**  
中インドからガンダーラ, カシュミールへ伝播(説一切有部) **サンスクリット聖典の成立**

BC.1c-AD.1c 大乘仏教の登場 AD.2c 中国 AD.6c 日本へ伝播  
AD.5,6c 密教の登場 AD.8c 日本, チベットへ伝播  
AD.13c インドで仏教教団滅亡

## 初期仏教時代のインド社会

- ・ 王(クシャトリア)権力の強大化      バラモン権力の低下, 四姓制度<sup>4</sup>の崩壊  
    <sup>4</sup>バラモン(ブラーフmana, 司祭者)・クシャトリア(王族)・ヴァイシャ(庶民)・シュードラ(隷民)
- ・ バラモン教への反発 「人間の価値は生まれ(血統)で決まる」
- ・ 沙門の登場 「人間の価値は努力で決まる」      釈尊, 六師外道  
    クシャトリア, ヴァイシャ層が支持

## 3 初期仏教の特徴

### 【縁起】

「これあればかれがあり、これが生ずればかれが生ずる。これがなければかれがなく、これが滅すればかれが滅する」(『相応部経』II)

苦諦・集諦      苦がどうやって生じるか      無明によって生じる  
滅諦・道諦      苦をどうすれば消滅できるか      無明を消滅すればよい, その方法が八正道

### 【無常・苦・無我】

「比丘たちよ、色(受・想・行・識)は無常である。無常であるものは苦である。苦であるものは無我である。無我であるものは「わがもの」ではない。これは「われ」ではなく、これは「わがアートマン」ではない。如実に正しい智慧をもって、このように観るべきである」(『相応部経』III)

「わがものとして執着したものを貪り求める人々は、憂いと悲しみと物惜しみとを捨てることがない。それ故、安穩を見た諸々の聖者は、所有を捨てて行ったのである」(『スッタニパータ』I)

「これはわがものである」また「これは他人のものである」というような思いが何も存しない人。かれはこのような「わがもの」という観念が存しないから「われなし」といって愁えることがない」(『スッタニパータ』)

「諸々のつくられたものは無常である。生じ滅する性質をもつものであって、生じては滅する。それらの寂滅することが安樂である」(『長部経』II)

「諸々のつくられたものはうつろいやすい性質を持っている。比丘たちよ、怠ることなく、努力せよ」(『長部経』II「大般涅槃経」)

### 【心性本浄】

「この心は清浄である。しかし、これは本来的なものではない煩悩によって汚染されている。…教えを聞かない凡夫たちは如実にこれを知らない。それゆえ、凡夫は心を実修していないと私は説く。…教えを聞いた尊い弟子はこれを如実に知っている。それゆえ、教えを聞いた尊い弟子は心を実修したと私は説く」(『増支部経』I)

### 【禅定】

「禅定(心を静め集中)しなさい、うろろするな。後悔を離れ、怠けてはならない。そして、比丘は、音のしない座臥所に住すべきである。眠りを多くとるな。しっかり警戒しなさい。懈怠と疑いと戯れ事と淫欲とお洒落を捨てなさい」(『スッタニパータ』)

## 参考文献

- 藤田宏達, 菅沼晃, 桜部建『原始仏教と部派仏教 - 釈尊とその弟子 - (アジア仏教史インド篇 II)』佼正出版, 1975.  
奈良康明『インド仏教史 I, II (世界宗教史叢書 7,8)』山川出版社, 1979.  
増谷文雄・服部英淳篇『仏教とはなんだろうか』(道心叢書 1) 道心会出版部, 1981.  
高崎直道『仏教入門』東京大学出版会, 1983.  
菅沼晃編『インド編 (講座仏教の受容と変容 1)』佼成出版, 1991.  
大法輪閣編集部編『ブッダ・釈尊とは - 生涯・教えと仏教各派の考え方』大法輪閣, 2001.